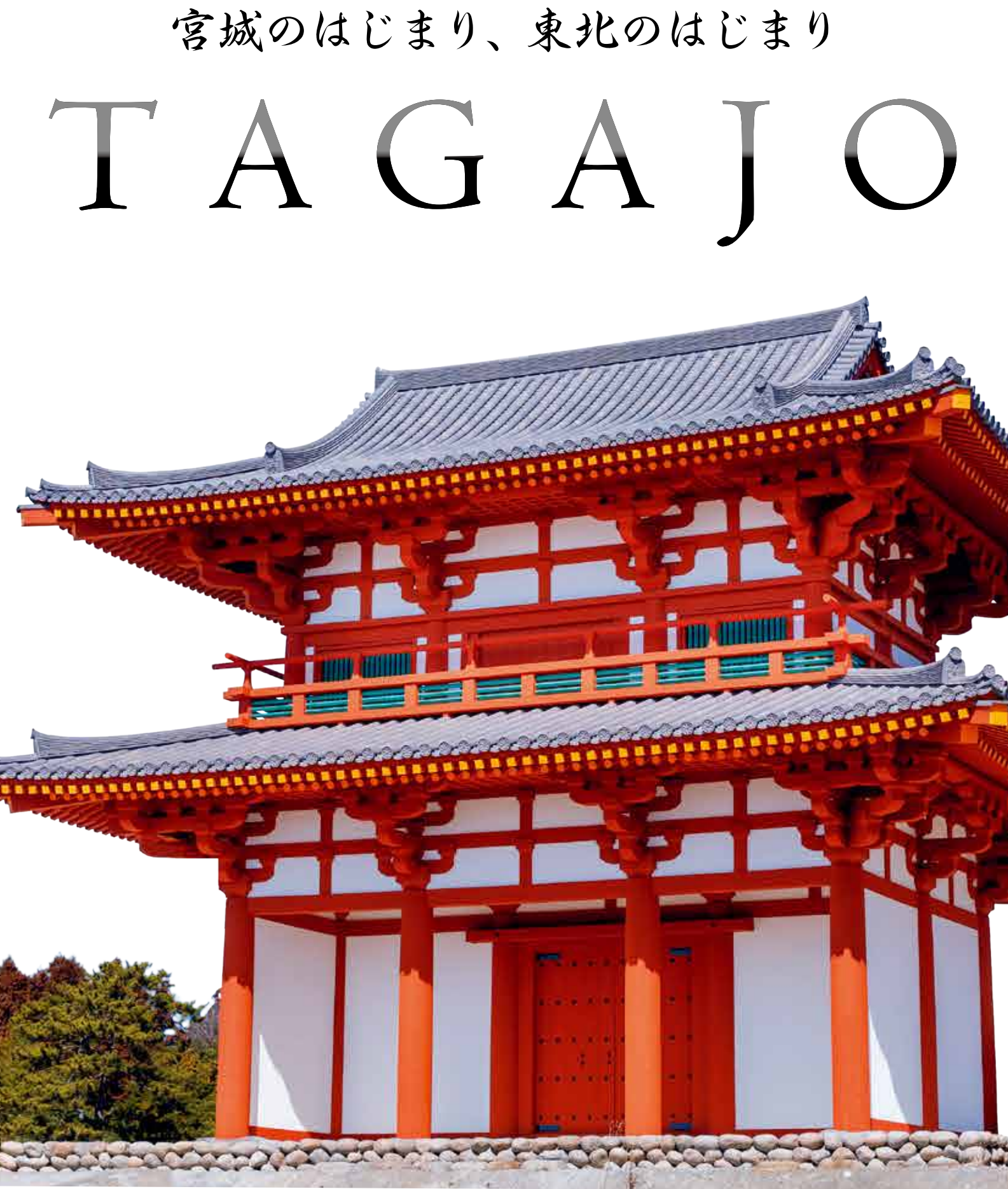




宮城のはじまり、東北のはじまり

TAGAJŌ



多賀城南門

～令和7年4月一般公開予定～

◎日本遺産を巡る

国府多賀城駅⇒(徒歩10分)⇒多賀城碑・多賀城南門⇒(徒歩2分)⇒多賀城政庁跡⇒(徒歩15分)⇒陸奥総社宮⇒(徒歩20分)⇒東北歴史博物館⇒(徒歩10分)⇒多賀城廃寺跡⇒(徒歩10分)⇒国府多賀城駅

◎塩竈街道を行く

陸前山王駅⇒(徒歩15分)⇒伏石⇒(徒歩1分)⇒貴船神社⇒(徒歩1分)⇒多賀城神社⇒(徒歩2分)⇒多賀城政庁跡⇒(徒歩5分)⇒多賀神社⇒(徒歩3分)⇒高低几号標⇒塩釜方面へ

◎歴史・文化をたどる

多賀城駅⇒(徒歩15分)⇒おもわくの橋・野田の玉川⇒(徒歩15分)⇒多賀城史遊館古代体験(埋蔵文化財調査センター展示室)⇒(徒歩10分)⇒多賀城市立図書館⇒(徒歩1分)⇒多賀城駅

◎震災復興の軌跡を追う

多賀城駅⇒(徒歩1分)⇒多賀城市立図書館⇒(徒歩1分)⇒多賀城市東日本大震災モニュメント⇒(徒歩10分)⇒末の松山・沖の井⇒(徒歩15分)⇒“さんみらい多賀城・復興団地”内松島蒲鉾本舗多賀城工場蒲鉾手焼体験⇒(徒歩15分)⇒中野栄駅
※津波浸水区域内の電柱には、地元高校生が設置した津波到達ラインの表示があります。

タクシー会社

- 多賀城交通(株) Tel.022(362)0165
- (有) 振興タクシー Tel.022(364)3355
- (株) 塩釜東光タクシー Tel.022(362)6760

一般貸切バス

- (株) 仙塩交通
多賀城市町前2丁目2-5 Tel.022(366)5666

宿泊施設

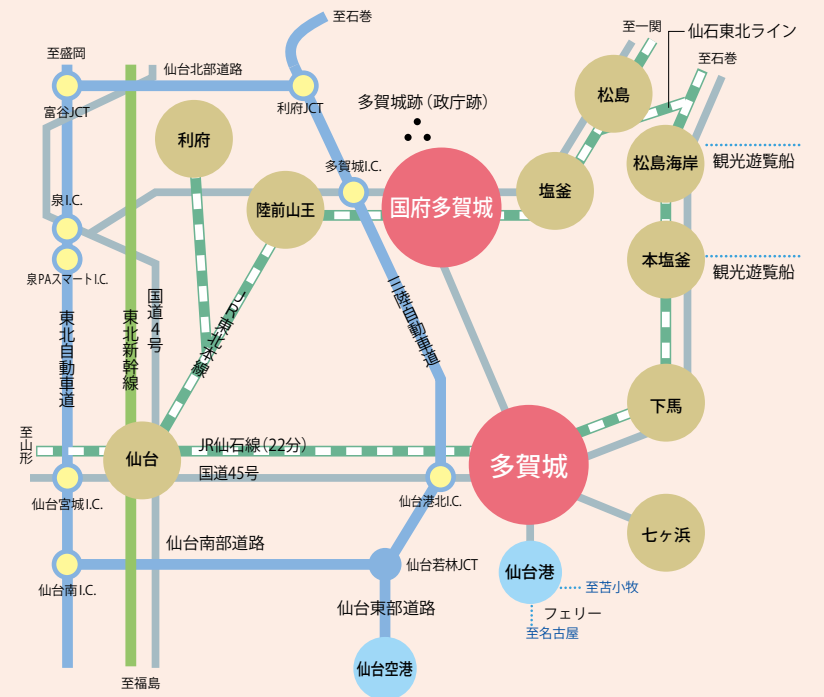
- ホテルキャッスルプラザ多賀城
多賀城市桜木1丁目1-60 Tel.022(367)1111
- サンホテル多賀城
多賀城市八幡4丁目7-52 Tel.022(362)3131
- 小野屋ホテル
多賀城市大代1丁目9-2 Tel.022(362)6381
- 新富旅館
多賀城市桜木1丁目1-28 Tel.022(364)8921
- 大代いとう
多賀城市大代4丁目6-25 Tel.022(362)6790
- ホテルルートイン仙台港北インター
多賀城市町前1丁目1-15 Tel.022(361)8501
- ホテルルートイン多賀城駅東
多賀城市八幡4丁目4-77 Tel.050(5847)7301
- スマイルホテル仙台多賀城
多賀城市町前1丁目1-8 Tel.022(367)6001

JR線でのアクセス

■仙石線 仙台駅 22分 多賀城駅 8分 本塩釜駅 10分 松島海岸駅
■東北本線 仙台駅 15分 国府多賀城駅 3分 塩釜駅 7分 松島駅
(多賀城碑・多賀城南門、多賀城跡、東北歴史博物館をご見学のお客様は国府多賀城駅が最寄り駅です)

車でのアクセス

■東北自動車道 仙台南IC 仙台南部道路 仙台南林JCT 仙台東部道路 多賀城IC 国道45号 多賀城まで約40分
■一般道 仙台 国道45号 多賀城まで約30分



観光ボランティアガイド



ボランティアガイドの案内により、多賀城跡や多賀城碑などの日本有数の歴史的文化遺産をより身近に感じてご覧いただくことができます。また、自転車で名所・旧跡を巡りたい方のためにレンタサイクルを用意しております。

ボランティアガイド

■案内時間

年末年始・お盆休みを除く8:30～17:00まで。

■ガイド料

ガイド料は有料です。(詳細はホームページでご確認ください。)
また、ガイドの随行に必要な交通費、食費、入場料金などの実費が生じる場合は、ご利用の方に負担していただきます。

■予約申込方法

ご利用希望日の10日前までに、観光協会ホームページまたは、FAXでお申し込みください。

レンタサイクル

■料金

1時間につき、電動アシスト自転車300円、スポーツ自転車200円、シティーサイクル150円です。

■貸出場所と利用時間

◎史都多賀城観光案内所(JR仙石線多賀城駅内)
10:00～16:00

※詳細はホームページでご確認ください

多賀城市

〒985-8531 宮城県多賀城市中央2-1-1 TEL.022(368)2085(直通)
多賀城市市民文化創造課 ◎Eメール kanko@city.tagajo.miyagi.jp

多賀城市観光協会・史都多賀城観光案内所

多賀城市観光協会

【JR仙石線 多賀城駅内】

〒985-0873 宮城県多賀城市中央2-7-1 TEL.022(364)5901 FAX.022(364)9905 開所時間/10:00～16:00
※詳細はホームページでご確認ください

【JR東北本線 国府多賀城駅北側】

〒985-0861 宮城県多賀城市浮島1-9-22 開所時間/10:00～15:00(12:00～13:00は閉所)
※但し毎週月曜日(祝日を除く)とお盆期間年末年始及び1月～2月は閉所

市HP



協会HP





西

多賀城 京を去ること千五百里
蝦夷国の界を去ること二百二十里
常陸国の界を去ること四百十二里
下野国の界を去ること二百七十四里
下野国の界を去ること三百三千里
此城は、神龜元年、歳は甲子に次る。按察使兼鎮守將軍
従四位上 熱四等大野朝臣東人の置く所也。天平宝字六年、
歳は壬寅に次る。参議東海東山節度使従四位上 仁部
省卿兼按察使鎮守將軍藤原惠美朝臣朝徳、修造する也。
天平宝字六年十二月一日



七六二年に建立され、西を正面にして立ち、石碑には京などから多賀城までの距離及び大野東人（おおののあずまひと）が多賀城を創建し、藤原朝橘（ふじわらのあさかり）が修造したことなど、一四一文字が刻まれています。現在は、日本三古碑のひとつに数えられています。
また、平安時代の終わり頃から登場する歌枕で、西行や源頼朝の和歌で知られています。江戸時代初めに多賀城碑が発見されるとすぐ「霊碑」の名で呼ばれ、松尾芭蕉は碑と対面した感動を紀行文「おくのほそ道」に書き残しています。
（国宝・国名勝・日本遺産）



多賀城碑（霊碑）



みちのくを旅する
松尾芭蕉

（絵は俳人の書画美術「蕪村」から）

奈良・平安時代に都から多賀城へ赴任した人々が、周辺の美しい自然を歌に詠み込んだことから、多賀城は都人のあこがれを集め広く親しまれていました。この時代の和歌に詠まれ全国的に知られていた名所は、「歌枕」と呼ばれ、江戸時代、仙台藩主や俳人などにより歌枕の整備が行われました。
松尾芭蕉は「おくのほそ道」の旅路で霊碑を訪れ、涙が流れそうになるくらい感動したことを記しています。

（国名勝・日本遺産）

「末の松山」は、恋愛をテーマにさまざまな歌に多く詠み込まれた歌枕の地。八幡地区にある宝国寺裏の丘にあり、今も松の木が天高くそびえ昔日の名残をとどめています。俳聖・松尾芭蕉も「おくのほそ道」紀行の中で訪れています。

ちぎりきなかたみに
そてをしほりつつ
すゑのまつ山なみこさじとは
後拾遺和歌集 清原元輔

末の松山



歌枕の地、多賀城

（国名勝・日本遺産）

末の松山の南、住居地に囲まれた一角にあり、池とそとの大きな石が目をはきます。江戸時代には仙台藩に奥井守が置かれて、大切に保護され、現在も地元の人々がその伝統を引き継ぎ守り続けています。

わが袖は
汐干に見えぬ沖の石の
人こそ知らね乾くまもなし
小倉百人一首 二条院讃岐

興井 沖の石・沖の井



（国名勝・日本遺産）

野田の玉川のせせらぎに架けられた「おもわくの橋」には、前九年の合戦で知られる安倍貞任と恋人の「おもわく」の恋物語が伝えられています。

ふまうさ
もみぢのにしき ちりしきて
人もかよわぬ おもはくのほし
山家集 西行法師

◆おもわくの橋



ゆふされば
しほ風こしてみちのくの
のだの玉河千鳥なくなり
新古今和歌集 能因法師



歴史のまち多賀城

多賀城跡は平城宮跡（奈良県）、大宰府跡（福岡県）とともに日本三大史跡に数えられています。
市域の1/4が遺跡になっているなど、古代には東北の拠点であった場所です。

東北随一の文化交流拠点

1,300年前東北の政治・軍事の拠点であった多賀城は、文化の拠点でもありました。
現在も東北歴史博物館や平成28年3月にオープンした市民の“知の拠点”市立図書館など文化施設が充実しており、東北随一の文化交流拠点を目指しています。

多賀城創建 1300 年記念事業

724（神亀元）年に創建され、陸奥国府が置かれるなど、
古代東北の政治・文化の中心として繁栄した「多賀城」が2024（令和6）年に創建1300年という節目の年を迎えました。
令和6年11月に行う、創建1300年記念式典をはじめ、脈々と受け継がれてきた悠久の歴史文化を振り返り、
豊かな未来へとつなげるさまざまな文化プログラムを予定しています。



1300年HP

歴史のまち

多賀城とは??

約一三〇〇年前の奈良時代に政府の支配が及んでいなかった陸奥国を統治するために設置した役所。神亀元年（七二四年）に大野東人（おおののあずまひと）が仙台平野を一望できる丘陵上に創建しました。当時の行政組織である「国府」と兵士の駐屯・監督場所である「鎮守府」が置かれ、万葉歌人として有名な大伴家持や征夷大將軍坂上田村麻呂が赴任するなど東北の政治・軍事・文化の拠点として栄えました。



多賀城跡（政庁跡）

約九〇〇m四方に及ぶ多賀城跡の中央に約一〇〇m四方の政庁跡があります。政庁は古代多賀城の重要な政務や儀式が行われた場所でした。陸奥国府も置かれ、平安時代に都の貴族たちはこの地を「みちのく」の名であこがれ、国府の官人だけでなく幾人もの歌人が歌を詠んでいます。

（特別史跡・日本遺産）



多賀城廃寺跡

政庁跡の南東1kmにあり、奈良時代のはじめに多賀城の附属寺院として建立されたもので、伽藍配置は大宰府（福岡県）の付属寺院・観世音寺と共通しています。現在は史跡公園となっています。
（特別史跡・日本遺産）

スマートフォンアプリ 歴なび多賀城

多賀城政庁跡、多賀城廃寺跡で、「歴なび多賀城」を起動すると、当時の建造物や松尾芭蕉などがVR・ARで再現でき、市内に点在する文化財の解説などもみることができます。ダウンロードは、App storeまたは、Google playで検索。
対応言語：日本語、英語、繁体語、簡体語、韓国語



歴なび多賀城



松島湾を取り囲む3市3町(塩竈市、多賀城市、東松島市、松島町、七ヶ浜町、利府町)と宮城県は、松島湾の「世界で最も美しい湾クラブ」への加盟をきっかけとして、この地域の魅力を再発見し、日本三景を超える「世界の松島湾」として、多くの観光客のみならずにより一層親しんでいただけるよう、更なる魅力向上などに取り組んでいます。

松島湾を抱く地域には、松島四大観をはじめとする「自然」の美しさや、史跡や遺跡が伝える「歴史」、カキやマグロ、海苔、利府梨などの「食」そしてこれらを存分に味わう「体験」など、実に多様な魅力が溢れています。

利府町・多賀城市 加瀬沼公園

多賀城跡の北にある周囲約4kmの沼で、江戸時代に水田用水池として造られました。今日では公園も整備され、釣りやピクニックに、四季を通じて親しまれています。農林水産省の「ため池百選」の一つに選ばれています。



塩竈市 志波彦神社・鹽竈神社

陸奥国一之宮として、1200年以上の歴史を誇り、本殿以下14棟の建物が国の重要文化財に指定されています。境内に咲く「鹽竈桜」は国の天然記念物であり、表坂の202段の石段や桜の頃の楼門は写真撮影スポットとして有名です。

七ヶ浜町 多聞山

標高56mの八ヶ森の景勝地で、多聞天像を安置する毘沙門堂があります。眼下に広がる馬放島や地蔵島、松島湾内の島々は、日本庭園の庭石をおもわせるかのような美しさで、松島四大観の「偉観」と称されています。

利府町 馬の背

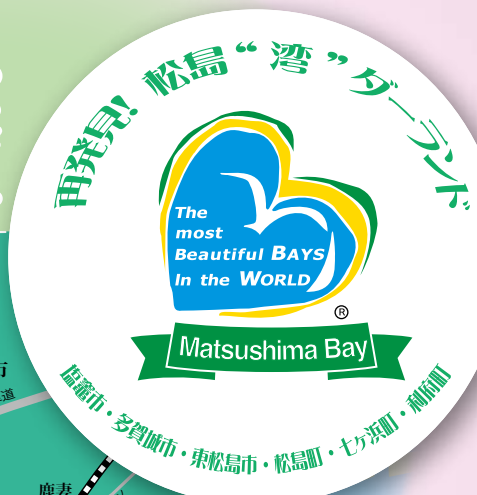
波の浸食によって250メートルほど海に突き出た天然の栈橋。風光明媚な松島湾を見渡すことのできる映えスポットです。

東松島市 嵯峨溪遊覧

岩手県の梶鼻溪、大分県の耶馬溪と並ぶ日本三大溪の1つに数えられる「嵯峨溪」。太平洋の荒波と風雨に浸食されてきた海蝕崖(かいしょくがい)は松島湾の女性的な優美さと対照的で、その男性的なワイルドな景観は驚きと感動の連続です。

松島町 瑞巖寺

正式名称が「松島青龍山瑞巖円福禅寺」とい、臨済宗妙心寺派に属する禅寺です。慶長14年(1609)伊達政宗が5年の歳月をかけて完成させ、伊達家の菩提寺としました。本堂・庫裡など7棟が国宝重要文化財に指定されています。



多賀城南門が完成しました。

多賀城政庁から南門・南北大路に至る区域において、多賀城南門復元工事を進めており、高さ14.5mの多賀城南門の全体を見渡せる状態となりました。

令和5年3月からは、築地塀及び大路の復元工事に着手し、多賀城跡来訪の入口となるガイダンス施設についても整備を進めています。

多賀城南門復元工事は完成し、両脇にとりつく築地塀復元工事等を引き続き行うため、現在仮囲いで閉鎖しています。

一般公開は、令和7年4月を予定しています。



この政庁南大路は、政庁と多賀城南門をつなぐメインストリートです。現在復元工事中の南門*をくぐり300mほど進むと、多賀城の中枢である政庁へ至ります。道路上には、多賀城創建時の南門跡が表示されていますので、ご来場の際には是非探してみてください。

*多賀城南門…現在復元工事中の南門は藤原朝綱による大規模改修によって現在の位置に建てられたものです。

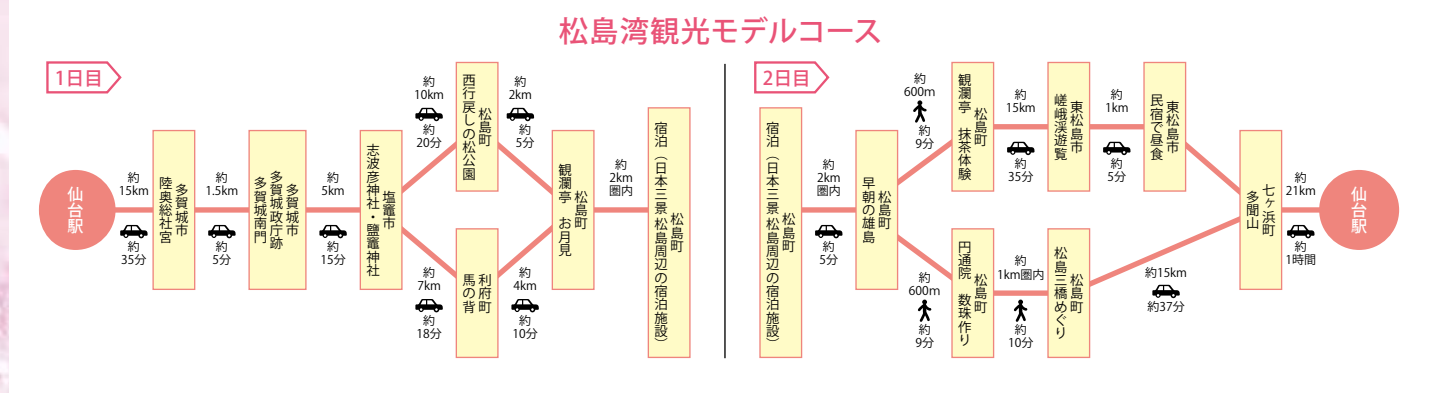


多賀城市
人口: 62,145人(令和5年11月1日現在)
面積: 19.69平方キロメートル
多賀城市は、東北地方宮城県県のほぼ中央、太平洋岸に位置し、周辺には、県庁所在地の仙台市や漁港で有名な塩竈市、そして日本三景の松島などがあります。まちの地形は、東西に長く、それを2つに分けるようにして中心部を砂押川が流れています。また、東部や北部には史跡が点在し、海に近い南部の平野には工場地帯が形成され、西部地区の平野には多くの田畑が広がっています。



平成28年3月にオープンした市立図書館。「家」をコンセプトに誰もが行きたくなる環境・居心地の良い空間となっています。じっくりと本を読みたい方、気軽に利用したい方など目的に応じて階層ごとに役割を設け、多くの利用者に親しまれています。

開館時間: 9:00~21:30、休館日: 年中無休





1 多賀城政庁跡

奈良時代のはじめから約300年間、陸奥の国府と鎮守府が置かれ、東北地方の政治・軍事の拠点でした。



2 多賀城南門と築地堀

多賀城創建1300年を記念して復元された南門と築地堀は、8世紀中頃（政庁Ⅱ期）のもので、多賀城外郭に設けられ、東北の政治・文化の中心であった多賀城の入り口に当たる重要な施設とされています。



3 多賀城碑(壺碑)

神亀元年（724年）の創建年代などを刻んでおり、歌枕「壺碑」ともいわれ、松尾芭蕉も訪れています。令和6年8月27日に国宝に指定されました。



4 多賀城跡あやめ園

多賀城跡の一角にあり、あやめ・花菖蒲など800種、300万本が咲き乱れ、市民や観光客の目を楽しませます。シーズンには、「多賀城跡あやめまつり」が開催されます。



毎年あやめの開花する6月中旬から6月下旬まで多賀城跡あやめまつりが開催されます。

5 東北歴史博物館

東北地方全域を視野に入れた歴史系博物館。旧石器時代から現代までの歴史を中心とした展示、映像上映を行っており、移築・復元した古民家では東北の伝統文化を幅広く紹介しています。

利用時間：9:30～17:00（入館は16:30まで）
観覧料：個人／一般460円、小・中・高校生は無料
団体／一般360円 ※20人以上
休館日：月曜日（祝日の場合は翌日）・年末年始 Tel.022-368-0106



6 多賀城廃寺跡

多賀城とともに建立された付属寺院。大宰府観世音寺と伽藍配置が同じであり、寺院も観世音寺の可能性が高いと考えられています。



7 多賀城史遊館

常設展示室では、縄文時代から江戸時代までの多賀城市の歴史や昭和の農家の様子を紹介しています。体験学習室では、「まが玉」、「縄文がこ」づくりなどが体験（一部有料）できます。
利用時間：9:00～16:30
休館日：月曜日、祝日の翌日、年末年始
Tel.022-368-3127



8 埋蔵文化財調査センター展示室

常設展「古代都市多賀城」では、発掘調査によって出土した様々な資料をもとに当時の多賀城を紹介しています。
利用時間：9:00～16:30
休館日：月曜日、祝日の翌日、年末年始
Tel.022-368-0134



9 多賀城市立図書館

利用時間：9:00～21:30
休館日：年中無休 Tel.022-368-6226





多賀城グルメブランド
古代米グルメ「しろのむらさき」



多賀城市観光協会が、平成28年1月に発表した古代米を使用した多賀城グルメブランド「しろのむらさき」。一般的なお米に比べ、古代米はミネラル、ポリフェノールなどの栄養素が多く含まれ、美容や健康にもうれしい食材です。取扱い店舗は、多賀城市観光協会HPをご覧ください。